

ながら増加する。

高血圧は最高血圧で150mmHg以上、最低血圧で90mmHg以上とされているので60歳以上になると男女とも高血圧症の範ちゆうに入ることは注目される。

また生産者世帯の最高血圧は消費者世帯よりも一般的に高い傾向を示している。消費者世帯細分による統計は対象数が少く不十分であるが概して日雇・家内労働者世帯は他の業態に比し男女ともやや高い。そのほかは顕著な差は認められない。

最低血圧は生産、消費の両世帯の間に著明な差は認められないが、65歳以上では消費者世帯が僅か低くなっている。また消費者世帯細分による業態別の差は最高血圧と同じく顕著でない。

次に5月と11月の測定結果を比較してみると一般に男女および各年令共、5月の方が高く11月が低い。これは冬期期間中における栄養摂取状態、環境条件等により影響をうけているものと思われる。

以上のように血圧は年令の増加と密接な関係を有しているが飲食物との関係は明らかでなく、特にそれを構成している栄養素との関係は本調査で判断することは困難である。しかし従来から述べられているように生産者世帯すなわち農民の食生活は、米食偏重等血圧を上昇させる要因を含んでいるものといえよう。

7. 食 材 料 費

ここでいう食材料費とは、摂取した全食品量について購入、自家生産、貰い物等の別を問わず、すべて市場価格に換算して一人一日当りの平均を示したものである。

1) 全国1人1日当り食材料費

全国1人1日当りの食費は103.12円（うち動物性食品入手に要した費用は25.86円）で前年の96.86円を6.5%上回っている。なお、これを食品群別にみると、総額中に占める米類の比率は31.0%、小麦4.4%、大麦2.2%、穀類全体では37.7%となっており、米の占める割合が極めて高いことを示している。

副食費では魚介類の占める割合が13.1%、獣鳥肉類6.1%、豆類5.5%などが主だったもので、次いで野菜類6.1%、果実5.0%となっている。

調味・嗜好品の占める割合も9.8%と、かなり高い率を示し、食生活内容に多分に奢侈的性格が盛り込

第41表

1人1日当り食材料費および比率

	金額	構 成 比				対 前 年 比						
		全 国	生産者世帯	消費者世帯	その他世帯	全 国	生産者世帯	消費者世帯	その他世帯			
		円	円	円	円	%	%	%	%			
総 額	103.12	92.77	110.93	91.32	100.0	100.0	100.0	100.0	+ 6.5	+ 5.8	+ 6.7	+ 1.3
穀 類	38.88	42.81	36.58	35.57	37.7	46.1	33.0	39.0	+ 5.8	+11.2	+ 3.5	- 6.5
い も	2.47	2.53	2.43	2.43	2.4	2.7	2.2	2.7	-10.8	-12.8	- 6.5	-31.5
豆 類	5.71	5.50	5.87	5.49	5.5	5.9	5.3	6.0	+ 1.2	+ 2.0	+ 0.3	+ 3.6
魚 介 類	13.47	9.73	16.03	12.36	13.1	10.5	14.5	13.5	+ 2.1	- 7.8	+ 6.1	- 0.3
肉・卵・乳	12.39	6.64	16.41	9.55	12.0	7.2	14.8	10.5	+17.4	+ 5.6	+18.1	+38.8
野 菜 類	6.30	5.99	6.51	5.98	6.1	6.5	5.9	6.5	+ 6.2	- 1.6	+10.9	+ 9.3
果 実 類	5.19	4.07	6.01	3.91	5.0	4.4	5.4	4.3	+ 8.6	+ 7.7	+ 5.8	+40.1
そ の 他	18.70	15.50	21.09	16.03	18.1	16.7	19.0	17.6	+ 8.3	+ 9.5	+ 7.7	+ 1.7

まれてきたことを示している。次に食品群別に対前年比をみると32年にくらべて最も増加したものは肉、卵、乳などの畜産食品費であつて17.4%増加し、それに次いで果実類8.6%、野菜類6.2%、また調味嗜好品などで比較的高級な食品の増加率が高かつたが、穀類もまた5.8%と前者の増加率に比べ低いとはいへかなりの増加を示した。減少したものとしては、いも類10.8%、それに大麦、雑穀などがあげられる。

豆類、魚介類などは消費量の面でも停滞しているが、また費用の面でも微増にとどまつている。

季節的にみると5月が最も高く104.68円、11月が最も低く100.82円で、およそ4.00円の差が認められる。なお栄養摂取量では既述の如く11月の摂取量が多く、8月に少なかつたが、食材料費ではむしろ逆の関係がみられる。

2) 業態別1人1日当り食材料費

業態別にみると第41表にみられるように消費者世帯の食材料費が最も高く110.93円、生産者世帯は92.77円、その他の世帯が最も少く91.32円である。

そのうち動物性食品入手に要した費用は、消費者世帯32.44円、その他の世帯21.91円、生産者世帯16.37円である。すなわち、消費者世帯は、生産者世帯に比べて総額において19.6%、動物性食品については98.1%と約倍近く要している。このように生産者世帯では自家生産できる植物性食品が主体となつているため購入を必要とするような品目特に動物性食品費はその他の世帯よりも少く最下位である。

イ) 生産者世帯

生産者世帯の食材料費は前述のとおり92.77円で、その他の世帯と共に低く、全国平均からみて10.0%下回つている。しかし対前年比をみると全国平均の6.5%の伸びには及ばないが5.8%とかなりの増加を示している。これを食品群別にみると、穀類の占める割合が極めて大きく他業態をはるかに上回る46.1% (42.81円) をしめ、消費者世帯の36.58円と比較して6.23円多くなつている。

しかし動物性食品の占める割合は17.7%で消費者世帯の29.3%にくらべ著しく少いが、特に肉、卵、乳等の畜産食品量は消費者世帯の14.8%に比べ7.2%と約 $\frac{1}{2}$ である。

また果実類4.4%、調味嗜好品8.9%など、いずれも消費者世帯からみると著しく少い。このように生産者世帯では自家生産物に強く依存している関係から、現金購入を必要とする品目や比較的嗜好性の強い品目の占める割合が極めて低くなつている。対前年比をみると最も増加をみせたのは穀類費の11.2%で、次いで果実類7.7%、畜産食品の5.6%があげられる。減つたものとしては、いも類の12.8%が最も著しいものであるが、これは甘藷の消費量が激減したためである。

ロ) 消費者世帯

消費者世帯の食材料費は110.93円 (うち動物性食品入手に要した費用は32.43円) で業態中最も高く、また前年の103.95円を6.7%上回る増加である。

生産者世帯と比べると総額において19.6%、動物性食品については98.1%多く要している。

次に総額中に占める穀類の割合は33.0% (36.58円) ではかの世帯よりはもちろん低い、他の副食物にあつてはいずれも多くなつている。特に肉、卵、乳類および嗜好品の占める費用が他業態に比べてかなり多くまた32年度にくらべても畜産物は18.1%、野菜類は10.9%増加するなど高級食品の増加が目立っている。次に5月調査における消費者世帯を細分した結果について述べる。事業経営者世帯の食費は前年より (+) 11.8%と大幅な増加をみせた結果、115.65円となり、これは他の世帯群に比し最も多い。

そのうち穀類の占める割合は平均以下の32.9%であるが、動物性食品、果実、調味嗜好品に要した費用は次に述べる常用勤労者世帯に次いで多くなっている。また昨年に比して果実類、畜産食品、野菜類の増加が他の世帯群にみられるよりも大きな伸びをみせている。常用勤労者世帯の食費は112.68円で事業経営者世帯に次いでおり、昨年と逆の結果になつている。事業経営者世帯と比べると穀類がやや少く、獣鳥肉、乳、卵類の費用が高くなつており、また昨年に比して畜産物と果実類の増加が目立っているが野菜類は減少している。

日雇・家内労働者世帯の食費は89.24円で前年に比べて増加はみられないのみか、反つて(-)0.6%と減少の傾向がみられ、消費者世帯中最も少く、最高の事業経営者世帯からみると22.8%低い。そのうち穀類の占める割合は44.0%で全業態中最も多い。しかし動物性食品、油脂、野菜、果実、調味嗜好品等の占める割合は極めて少く、また前年とくらべて穀類費の増加はみられたが、野菜、果実、魚介類など1~1.5割減少するなど食生活水準の低いことを示している。

第42表 1日1人当り食材料費および比率 (消費者世帯細分・33年5月)

	金 額				構 成 比				対 前 年 比			
	事業 経営 世 帯	常 用 勤 労 者 世 帯	日 雇 ・ 家 内 労 働 者 世 帯	其 他 の 消 費 者 世 帯	事業 経営 世 帯	常 用 勤 労 者 世 帯	日 雇 ・ 家 内 労 働 者 世 帯	其 他 の 消 費 者 世 帯	事業 経営 世 帯	常 用 勤 労 者 世 帯	日 雇 ・ 家 内 労 働 者 世 帯	其 他 の 消 費 者 世 帯
	円	円	円	円	%	%	%	%	%	%	%	%
総 額	115.65	112.68	89.24	101.19	100.0	100.0	100.0	100.0	+11.8	+7.6	-0.6	+6.0
穀類・いも類	39.89	38.08	41.24	38.45	34.5	33.8	46.2	38.0	+9.8	+5.3	+8.8	+5.4
魚介類	16.28	15.77	11.98	13.10	14.1	14.0	13.4	12.9	+6.9	+4.5	-9.5	-8.3
肉・卵・乳	16.51	17.38	7.83	12.48	14.3	15.4	8.8	12.3	+20.9	+25.4	+6.8	+15.7
野菜類	9.84	7.51	5.57	6.74	8.5	6.7	6.2	6.7	+17.4	-2.5	-14.7	-8.7
果実類	5.27	5.15	2.25	5.41	4.6	4.6	2.5	5.4	+38.7	+12.9	-12.8	+51.5
その他	27.85	28.79	20.39	25.00	24.0	25.5	22.9	24.7	+6.9	+5.3	-8.3	+9.0

その他の消費者世帯の食費は101.19円で消費者世帯の平均よりやや低く、また穀類の占める割合が多いが、副食費は日雇・家内労働者世帯に次いで低くなっている。

ハ) その他の世帯

その他の世帯の食費は第38表にみられるように91.32円で全国平均よりみると11.4%低い、その内容についてみると、生産者世帯と比較的類似した形をとっているが、穀類の占める割合がやや少く、他の副食費は生産者世帯より多く要している。

対前年比をみると畜産食品と果実類が4割前後の増加をみせたが、いも類は3割以上の減少を示すなど、前年からみるとその消費構成に著しい変化がみられる。

8. 国民栄養の問題点とその改善の方向

以上述べてきたとおり、わが国の食生活は食糧構成の面でかなりの進展をみせているところであるが、昭和34年7月24日に栄養審議会から答申された昭和37年度を目標とした日本人の望ましい食糧構成表と対比してみると目標量よりも上回つて消費されているものは米7.5%、その他のいも類(甘藷、馬鈴薯を除くいも類および加工品)6.0%、白色野菜22.6%が主なるもので、最も不足状態にあるものは牛乳49.6%、緑黄色野菜42.7%、次いで馬鈴薯、甘藷、豆類、肉、卵、魚、果実類等いずれも10~30%も少ない状態にあ